

大平さんにズバリ・インタビュー

聞き手・「週刊朝日」記者 勝亦 祐次

昭和五三年一〇月末、総裁公選でいよいよ福田・大平の対決が決まった直後のインタビュー。気負うことなく、淡々と心境を述べている。

かねがね「私に野心はない」といつていましたが総裁の座を意識したのはいつころからですか。

大平（ムツとして）すでに佐藤内閣後の総裁選に立候補したことがあるし、もう久しいわけです。総理総裁というのは、そんなにいいものですか。

大平（すぐに）やってみたいポストです。（考えてから）けれども、どんなことをしてでもなりたい、すべてはなつてからだとは思いません。なり方も大事ではないか、と考えています。

あなたは二回、チャンスを見送りました。椎名裁定のときと三木内閣後、福田氏に譲ったときです。当時の心境は？

大平 ウーム、大勢が話し合いに決まった以上、それを尊重していくのが党員の道だと思っただけですがね。

悔しくなかったのですか。

大平（笑って）そういうことは……そのときの選択ですから。別に、めんめんたる悔いは残っていませんよ。

池田勇人首相は在任中、ゴルフと待合に足を運ばなかった。あなたは何を律しますか。

大平 当時、ゴルフと待合は庶民が楽しめるものではなかったから、池田さんに「遠慮したら」と申し上げた。しかし、現在は、あのころの庶民とは違っていますしね。別に窮屈に考えていません。庶民からあんまり離れん範囲でやっておればいいんじゃないですか。

池田時代を評して、あなたは「しあわせな時代」といいました。現代はどんな時代ですか。

大平 今は、一歩前進するにもなかなか骨が折れる時代で……。われわれのフロンティアが狭くなった時代じゃないですか。いろんな諸条件の錯綜する中での選択は、汗をかかないではなかなか……。よほど工夫してかからなければ、選択が難しい時代になってきた。

その時代のカジを取ろうとするに当たって、日本をどの方向に向けようと考えてますか。

大平 大それた意図はもってません。日本人は優れた潜在的な能力をもってるから、それを正しい方向へ、よどみなく開発し、伸ばせるように、そういう状態がほしいわけです。（考え込んで）そして、そのコンダクターに……。リーダーになるといふより、コンダクトしていききたい、懸命にコンダクトしていかねばならない、という感じですよ。

アーウーの間に考えているのだ

世間では、大平さんと福田さんにどんな違いがあるか、と首をかしげていますが。

大平 (きつぱりと) 今までのキャリアからいっても、福田さんと私の歩んだ道は違う。私の道をたどってもらえば、それぞれの顔が違うように、違った考え方、違った手法があると、理解してもらえないではないでしょうか。

しかし、わかりにくい。

大平 福田政治は私が支えてきたし、わからんというのが当たり前です。違っていたら、党や内閣はもたなかった。

有事立法や減税で、福田さんと意見が違ったと聞きますが。

大平 (ウン、ウンとうなずく)

そういうとき、支える方は損な役回りですね。

大平 いやいや、損得でなく、そういう責任があるわけですから。ベストを尽くさねばならんし、尽くしてきた。悔いはありませんよ。

福田さんとのちがいをどう表すのですか。

大平 これからさき、そういう場面に出くわして、福田さんの考え方、手法と私のそれとを、みていただかなければ、わからんのではないのでしょうか。一口にいえば、顔が違うように違っし、保守党の政治家として共通点もあります。

かつて、あなたは「政界はジェラシーの世界だ」といいました。今も、そう思いますか。

大平 (真顔で) 人間の世界は嫉妬の海じゃないですか。おなごばかりでなく、男の世界はもっと激しい……。人間はそんなに立派じゃないよ。

政界について、イヤなことは。

大平 思ったことをいえないとか、やりたいことをやれないところ。いうべきときにいい、やるべきときにやるのが政治なんだが、なかなか思うに任せない。(笑いながら) 勇気が足りるところです。自分でたしなめているんだが……。

生まれ変わっても政治家になりますか。

大平 ウー、まあ、第一に選択する職業ではないなあ。

政治家にならなかつたとしたら、今ごろ何をしていますでしょう。

大平 大蔵省を退官して、どこかの公社公団に勤めさせて貰って、それも済んでるね。(身をよじりながら) どこかで、しがないごうかい稼ぎでもしてるんだろうかなあ。しあわせかどうかの問題は別ですね。

あなたの本好きは有名ですが、大平派の中には「もっと外部へヤル気をみせてほしい」という人がいます。

大平 (質問をさえぎって) 内容がない者が、何を発散するのですか、自ら蓄えることがない者に発散しろ、というのは無理だ。まず蓄えなけりゃいかんです。だから、本を漁ってるんです。しかし、なかなかヒマもなくて……。一週間に一度か二度、必ず本屋へ行つて、数冊買うんだが、読み通すことはできないし、読んでわかるといふことはもっと……。自分としては、不十分ながらも修業しているつもりなんです。これをしなかつたら大変でね、つまり人間がなあ、つまらなくなつて、ハッハッハッ、こりゃ、いけませんよ。

イメージとして、もっとパッツとしたものが欲しいということですが。

大平 それを私に求めるのは無理だ。パッツと、派手にやる能力は、私にはない。別の人に求めてください。私の肌に入ったもので我慢していただきたい。

大平さんは名文家といわれますが、話すとき、どうして「アーウー」になるんです。

大平 アーウーは私の愛称でもある半面、イメージダウンの代名詞でもあるんでしょうねえ。私は、国会答弁を、すらすらやらなかったし、アーウーという間に考えていたんです。

頭の方はフル回転ですか。

大平 外務大臣をしていると、答弁している間、各国の反応を意識するから……、考えながら、やってたわけです、ヘッヘッ。

イメージの問題をもつ一つ。ご自分の顔をどう思います。

大平 (さりげなく) どういう感想も持ちませんね。責任をもてる顔でありたい、と思っただけで……もともと、目鼻立ちの造作はよくないが、と行って、つけかえるわけにもいかんし、まあ、あきらめていますかね。

クリスチャンですね。

大平 若いときに入信して、洗礼を受けたが、このころは聖書や教会から遠ざかってしまっ……。熱心なクリスチャンとはいえないけれど、そういう傾向はもっている、といえますね。

神の存在を信じますか。

大平 神がいるとか、いないとか、口の端にのせるのはどんなものか。ただ、偉大なる存在に対する敬虔な気持ちはもってるつもりです。

信仰と、現実の政治は両立するものですか。

大平 信仰は信仰だと、部屋に置いてきて、現実の問題は別の部屋でやる、というわけにはいきません。やはり、一如で、別のものではないと思う。

角栄氏には大変魅力を感じてる

大平さんの言動をみると、仏教の諦観の方が強いのでは。

大平 ウーン、たしかに仏教の影響はあるんです。キリスト教は、和辻哲郎先生の本にある通り、砂漠の宗教で、戦鬪的な面がある。仏教は農村の宗教で、自然の猛威の中で、人間は弱いものだという諦観の哲学です。まあ、日本人は大なり小なり、仏教的なメンタリティーをもっているのではないのでしょうか。

政治の話に戻ります。最も印象に残る仕事は何ですか。

大平 (考え込んで) 華々しいことといえば、池田政権をつくったこと、日中国交正常化をなし遂げたことかが、比較的華やかだったけど……。しかし、その陰には、いろいろ、うれしかったこと、辛かったことが、それこそ数限りなくあったからねえ。

政治家として、尊敬する人はだれですか。

大平 私の身边に相当、おられるし過去にもたくさん、おられる。しかし、あえて一人を挙げるとすれば、毀誉褒貶はあるけれど、吉田茂さんですね。非常に勇気があったこと、決断力というものに魅力を感じます。

政界以外の人では。

大平 それこそ、名もなき人、名もある人、たくさん、いるんじゃないかな。
ライバル評を、福田さんを。

大平 (じつくりとコトバを探しながら) 意志の強い……。しかも手堅い手法で……。現実的に問題を処理してきた人。だから、首相になれたのではないですか。

中曽根康弘さんは。

大平 (サツと) あの方は、ちょっと詩人のような要素があつて。アイディアマンですね。

河本敏夫さんは。

大平 大変バランスのとれた、かつ決断力のある現実的な政治家と思います。

田中角栄さんはどうです。

大平 あの人は、珍しい天才ではないでしょうか。着想力もあるし、同時に、それを現実の世界と結びつける特異の才能をもった人です。大変、魅力を感じています。

今度の総裁選でも、やはりカネがばらまかれるのでは。

大平 (きつぱりと) 公選でカネを集めたり、使ったりは一切しない。(同志にも)それだけはやかましくいつてきてきている。第一、そういうカネもありませんし……。なかには「カネは大丈夫か」と、親切にいつてきてくれる人もありますが、「ご心配に及びません」と断っています。

最後に。勝ち目あると思つていきますか。

大平 (ブッキラ棒に) そんなこと、予言者に聞いてくれ。